

### 総括

- ・平成23年度当初に予定していた施策(70施策)は、ほぼ予定どおり実施している。また新たに5施策を実施。
- ・水環境の再生については、現時点で底層DO、透明度ともに目標を下回る地点はなく、生物生息・生産の場の保全・再生についても、底質改善箇所や新たに造成した干潟に生物の定着が見られるなどの効果が見られた。
- ・親水空間づくりや、親水空間を活用した賑わいイベント、環境学習活動などについて積極的に開催している。
- ・平成23年度は清掃美化活動への参加人数や広島湾内の主な観光地への入込客数がやや減少していることから、広島湾の保全・再生に関する地域の方々のさらなる意識の向上を図っていく必要がある。

### 目標1: 森・川・海の健やかな繋がりを活かし、豊かな広島湾を保全・再生する。

#### ◆平成23年度施策の実施状況

- ・平成23年度当初に予定していた40施策全てを予定どおり実施。また、新たに1施策を実施。
- ・下水道整備、下水道の高度処理化および合流式下水道の改善などの汚水処理対策については、計画どおり進捗している。
- ・底質改善実験、干潟再生等の実施については、モニタリング調査によると、生物相の改善やヘドロの改善、多様な生物の生息が確認されるなどの効果が現れている。

#### 目標1-1: 水環境の再生

- ・下水処理人口普及率および下水道高度処理人口普及率は、平成28年度までにそれぞれ約7%、約13%向上という目標に対し、平成22年度末までに約3.6%、約9.6%向上しており、計画どおり進捗している。
- ・合流式下水道の改善は、平成28年度までに8地区改善という目標に対し、平成23年度時点で1地区整備完了、7地区で設計または施工に着手しており、計画どおり進捗している。
- ・底質改善については、海田湾や京橋川オープンカフェ前において、リサイクル材の石炭灰造粒物を用いた底質改善実験を実施しており、モニタリング結果によると、多様な生物の生息が確認されるなどの効果が現れている。

#### 【水質の状況】

- ・平成21年度より、各機関が夏季に調査時期を統一した水質一斉調査を行っており、過去3回の調査では、年変動はあるものの、底層DO(目標値2mg/L以上)、透明度(目標値1m以上)ともに、ほとんどについて目標値を下回る地点は見られなかった。

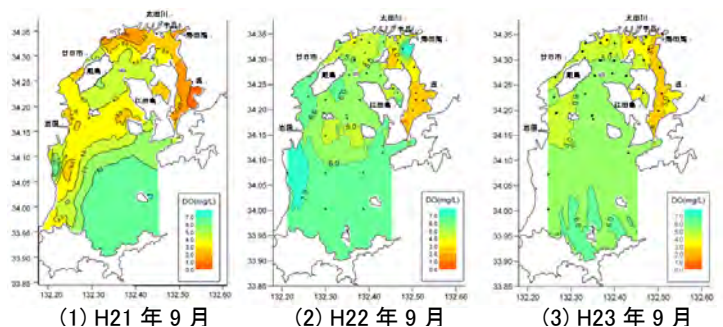


図-1 各年の水質一斉調査結果に基づく底層DO平面分布図の比較

#### 目標1-2: 生物生息・生産の場の保全・再生

- ・広島港海岸では、高潮被害や液状化被害の防止機能の確保に合わせて、生物生息機能を創出する護岸構造の付加を進めており、平成23年度は吉島地区に200mの生物配慮型護岸の整備を実施。

#### 【干潟の状況】

- ・新たに生物生息・生産の場を再生するための試みとして、太田川水系太田川における干潟再生実験(旭橋下流左岸)を実施しており、モニタリング結果によると、ハクセンシオマネキやスナガニなどの貴重な生物の定着が確認されている。



図-2 太田川水系太田川の干潟再生試験区に定着している貴重種の例

#### ◆平成24年度の実施予定

- ・引き続き、下水道整備、下水道の高度処理化および合流式下水道の改善などの汚水処理対策を推進。
- ・底質改善については、モニタリング結果等に基づき、改善効果のとりまとめ・評価を実施する予定。
- ・引き続き生物配慮型護岸の整備を進めるとともに、どのような生物が生息しているかなどについて経過観察を行っていく予定。

## 目標2:人と海との繋がりを取り戻し、親しみやすい広島湾を再生する。

### ◆平成 23 年度施策の実施状況

- ・平成 23 年度当初に予定していた 17 施策のうち、16 施策を予定どおり実施。また、新たに 2 施策を実施。(平成 23 年度整備予定であった宮島 弥山山頂の展望台については、平成 24 年度の整備に向けて引き続き対応中。)
- ・魅力ある親水空間づくりや、親水空間を活用した賑わいイベント、川や海における環境学習活動などについて積極的に開催している。

- ・広島港宇品地区の荷捌き地等を活用した新たな水辺空間の整備や周防大島町における親水性護岸の整備など、4 箇所で魅力ある親水空間づくりを実施。
- ・親水空間を活用した賑わいイベント(ベイサイドビーチ坂におけるビーチカーニバルや原爆ドーム対岸テラス等での水辺のコンサートなど)についても積極的に推進。
- ・小学生を対象とした広島港の見学会、海の生き物の観察会などの環境学習活動についても積極的に推進。
- ・平成 22 年度に作成した広島湾の環境学習副読本について、平成 23 年度は広島市内の小学校の授業で活用し、課題等を抽出。今後は学習効果や使用感の観点から改訂等を行っていく予定。

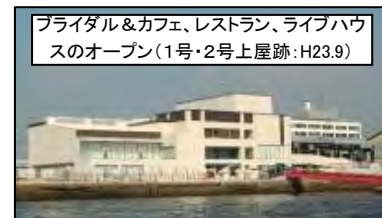


図-3 広島港宇品地区の荷捌き地等を活用した新たな水辺空間の整備(広島県)

### ◆平成 24 年度の実施予定

- ・引き続き、京橋川左岸側での独立店舗型オープンカフェの新規展開、第 2 音戸大橋音戸側広場の整備など、新たな親水空間の整備を実施。
- ・環境学習活動を引き続き積極的に推進するとともに、環境学習副読本等を活用した支援についても検討。

## 目標3:宮島などの魅力ある自然景観、歴史・文化を活かし、美しい広島湾を保全する。

### ◆平成 23 年度施策の実施状況

- ・平成 23 年度当初に予定していた 13 施策全てを予定どおり実施。また、新たに 2 施策を実施。
- ・市民を対象としたワークショップやモニタークルーズを開催するなど、自然景観、歴史・文化の活用(観光)や保全に関する新たな取り組みを実施。
- ・市民連携による清掃美化活動を着実に実施。また、海面清掃船による海面浮遊ゴミ対策を着実に推進。

- ・「広島湾の魅力と課題を探るワークショップ(宮島・廿日市会場、呉会場各 2 回)」の開催や、瀬戸内海・海の道の利用振興に向けた取り組みの一環として、平清盛ゆかりの音戸の瀬戸などを巡るモニタークルーズなどの新たな取り組みを実施。
- ・「リフレッシュ瀬戸内」清掃活動や「クリーン太田川」、広島県ラブリバー認定団体による清掃活動などの市民連携による清掃美化活動の参加人数はやや減少しているものの、実施回数は着実に増加。
- ・海面清掃船「おんど 2000」によるゴミ回収量は、過去最大の約 1,600m<sup>3</sup>になるなど海面浮遊ゴミ対策は着実に推進。

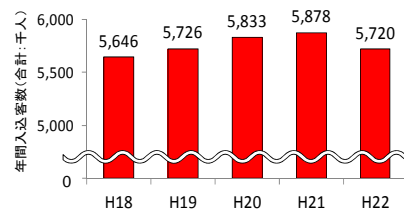


図-4 広島湾内の主な観光地(自然景観、歴史・文化的資源)への年間入込客数

#### 〔観光地への入込み客数の状況〕

- ・広島湾内の主な観光地(自然景観、歴史・文化的資源)への年間入込客数は、平成 22 年度にやや減少。

### ◆平成 24 年度の実施予定

- ・引き続き、自然景観、歴史・文化の活用や保全に関するイベント等の取り組みを推進するとともに、「平清盛」をテーマとする観光資源の開発などの新たな取り組みも推進。
- ・市民参加による清掃美化活動、海面清掃船によるゴミ回収についても引き続き着実に推進。